

汚染水海洋放出に反対

福島原発

政府が13日に決定した東京電力福島第一原発の汚染水海洋放出方針に対し、漁業関係者から強い反対の声が起っています。青森県八戸漁業指導協会の熊谷拓治会長理事（83）に聞きました。

（青森県・藤原朱）

八戸漁業指導協会会長理事

熊谷拓治さんに聞く

「八海は広いな大き 998年には80万トを
な」と子ども頃の歌
いました。海は無限だ
と思っていたのです。
ところが、今、その限
界が見えてきました。
八戸港の水揚げは1



記録し、日本一でした。しかし、昨年は最盛時の1割にも満たないわずか6万ト。日本全体でも、ピーク時には1200万トあった水揚げが300万トと落ち込んでいます。漁業はなぜこんな苦しい状態に追い込まれてしまったのか。

原因の一つは、温暖化に始まる異常気象です。八戸の大型イカ釣り船団はかつて、アルゼンチン沖で大漁を続けていました。ところが、南極の氷が解けるとともに、プランクトンもイカも消えていったのです。

次に資源管理の不備。さらに外国漁船の無法な乱獲が追い打ちをかけたのです。プラスチックごみに代表される海洋汚染。そして、海洋酸性化が海洋生物を追い詰めています。悲鳴を上げているのは人間や魚だけではなく、海も悲鳴を上げているのです。

そこに汚染水の海洋放出の計画が国から提案されました。私は一瞬、東日本大震災の「惨劇」を思い出しました。そして原発事故です。放射能汚染で福島や周辺地域の漁民がどれほど苦しんだことか。幸いにして、八戸地域の前沖は汚染はななく、タラなどの回避魚も徹底的に放射能汚染をモニターし、汚染さ

原因の一つは、温暖化に始まる異常気象です。

汚染水の海洋放出は2年後と言います。私は、汚染水海洋放出に断固反対です。美しい海と漁業者を守るために、海洋放出以外のあらゆる手段を考えてほしいのです。

先日、八戸水産高校の入学式で、私は新入生に言いました。「海を選んでくれてありがとうございます。海を守ることは人類を守ることになります」